

藤原 帰一（ふじわら きいち）氏 略歴

昭和 50 年卒

東京大学政策ビジョン研究センターセンター長／法学政治学研究科教授



1956 年 6 月 16 日生まれ。

1975 年麻布高校卒業。

1979 年東京大学法学部卒業。

1984 年同大学大学院博士課程単位取得満期退学。フルブライト奨学生としてイェール大学大学院に留学。

千葉大学助教授、東京大学社会科学研究所助教授を経て、現職。

海外ではフィリピン大学アジアセンター客員教授、米国ウッドローウィルソン国際学術センター研究員、ジョンズ・ホプキンス大学高等国際研究院客員教授、英国ブリストル大学客員教授などを歴任し、2007 年より放送大学客員教授を兼任。

専門は、国際政治学、比較政治学、フィリピンを中心とした東南アジア研究。2001 年に刊行した『戦争を記憶する』が、折からの歴史認識論争のなかで注目された。同時多発テロ事件以後は総合雑誌や新聞など論壇活動が増えていき、テレビ出演も数多い。2010 年 4 月からは 2011 年 9 月までテレビ朝日「サンデー・フロントライン」のレギュラーを務めた。映画マニアとしても知られ、2007 年 8 月から 2012 年 5 月まで、『AERA』で「映画の記憶」を連載した。2012 年 4 月には、外国映画ベストサポーター賞を受賞。現在、『毎日新聞』日曜版に「藤原帰一の映画愛」を連載中。

【最近の著書】

『戦争を記憶する—広島・ホロコーストと現在』（講談社、2001 年）

『デモクラシーの帝国—アメリカ・戦争・現代世界』（岩波書店、2002 年）

『平和のリアリズム』（岩波書店、2004 年）（第 26 回石橋湛山賞受賞）

『戦争の条件』（集英社、2013 年）